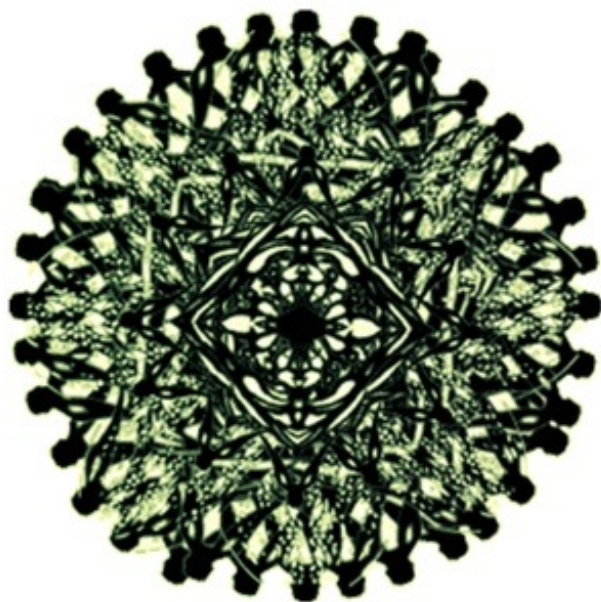




Adorare

アドラーレ03

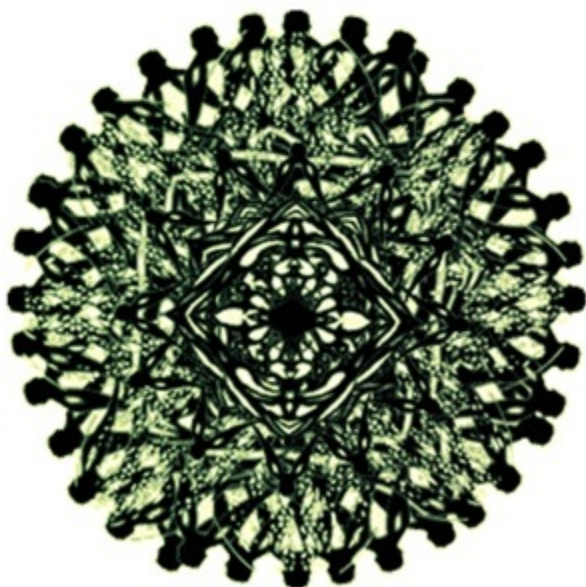


片足靴屋/Sheagh sidhe SAKIHA HAENO



Adorare

アドラーレ03



片足靴屋/Sheagh sidhe SAKIHA HAENO

Adorare

アドラーレ03



片足靴屋/Sheagh sidhe SAKIHA HAENO

誰かが言った。
変化とは唐突であると。



君は言った。
変化とは過程であると。



僕は思った。
変化とは結果であると。



僕には鏡像のような片割れがいる。だから、僕らが住まう海辺の家の住人たちは、僕らのことをふたり纏めて双子と呼んでいた。ふたりでひとつの呼称に不満があるわけではなかったけれど、僕らの間で互いを区別することもあったから、その時には、僕は鏡像のことを君と、鏡像は僕のことをきみと呼んでいた。そのくらいの決まりごとだけで、他者からはひとまとまりとされている僕らが、ふたり一緒に日々を過ごすにはことたりた。

たとえば、鹿の角を持つ者がこの家の新たな住人となった時もそうだった。

君は僕と違って好奇心が旺盛であつたから、海辺の家に変化があると、それを敏感に察知して目を輝かせ、僕に知らせてくる。

変化とは唐突なのだ。だけど、この変化は、僕らには何の影響もなかった。いつしかカタツノと呼ばれるようになっていたそれは、空から落ちてきた雨の一粒が湖水に呑まれるように、静寂の裡に喰われていったかのように、気がつけば、海辺の家に馴染んでいた。

僕はサンルームが好きだった。
だから、晴れた日のほとんどは
そこで過ごしていた。

僕は雨が好きだった。

だから、雨の日のほとんどは、
庭で雨を浴びて駆け回っていた。
ゆえに、ある雨の日、ヤギメが
僕らのところにタオルを持って
きてくれたことは、不思議でも
なんでもなかった。ヤギメとは
ながい付き合いだったし、普段
ヤギメが空を眺めている瓦礫の
山には雨を遮るものがないから、
雨の日のヤギメは家の中をうろ
うろしている。暇を持て余した
ヤギメが僕らのことを思い出し、
面倒見の良さを発揮したとして、
それを厭う所以など僕にはない。

お腹がすいたかい？

サンルームに留まったまま、
雨降る庭ではしゃいでいる
方割れを眺めていた僕に、
ヤギメが声をかけてきた。

これから食堂に昼食を取りに行くから、
君たちの分ももらってこようか？
今日は雨だからね

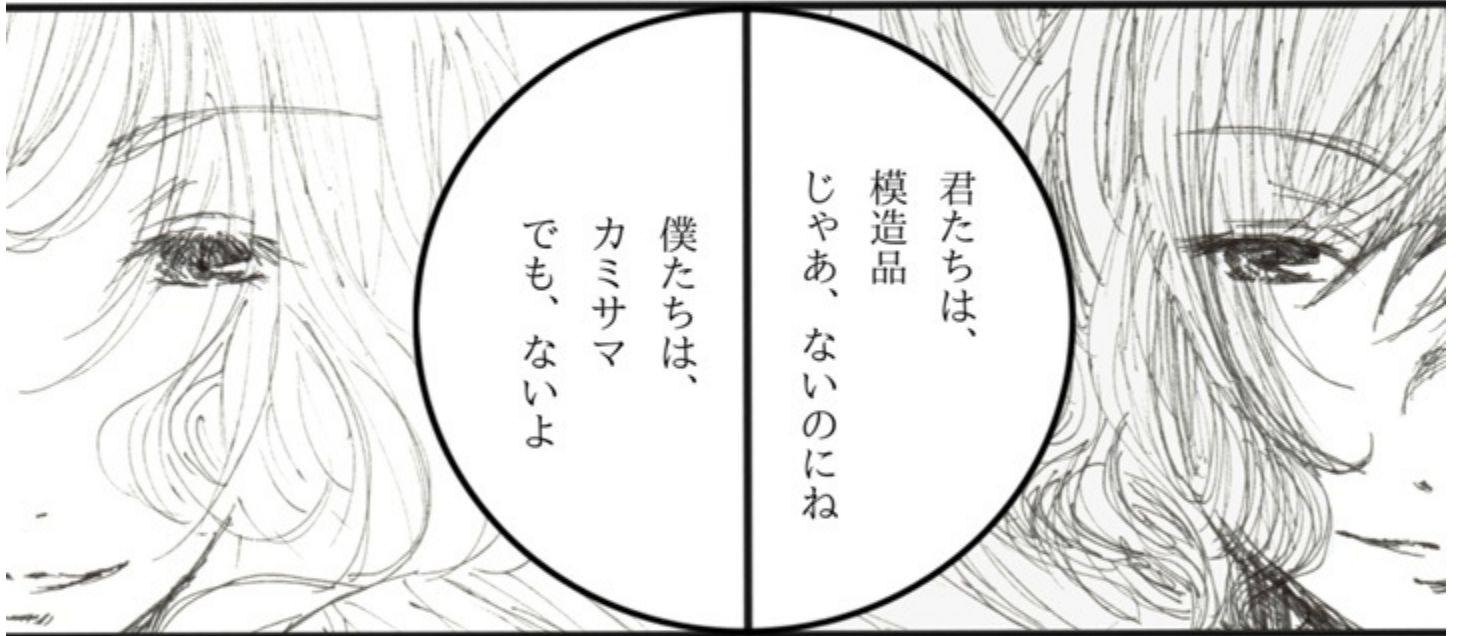
わずかでも陽があれば要らないだろうけど
厨房に事情を説明するのも面倒だろう？

ありがとう
助かるよ

どうせ食堂には行くんだ
ただのついでさ

それにしても
きみたちはほんとうに
光と水が好きだねえ

単純なこと
おなかいっぱいなのが
好き sadece
それらで僕らの満腹中枢は
満ち足りるみたいだから



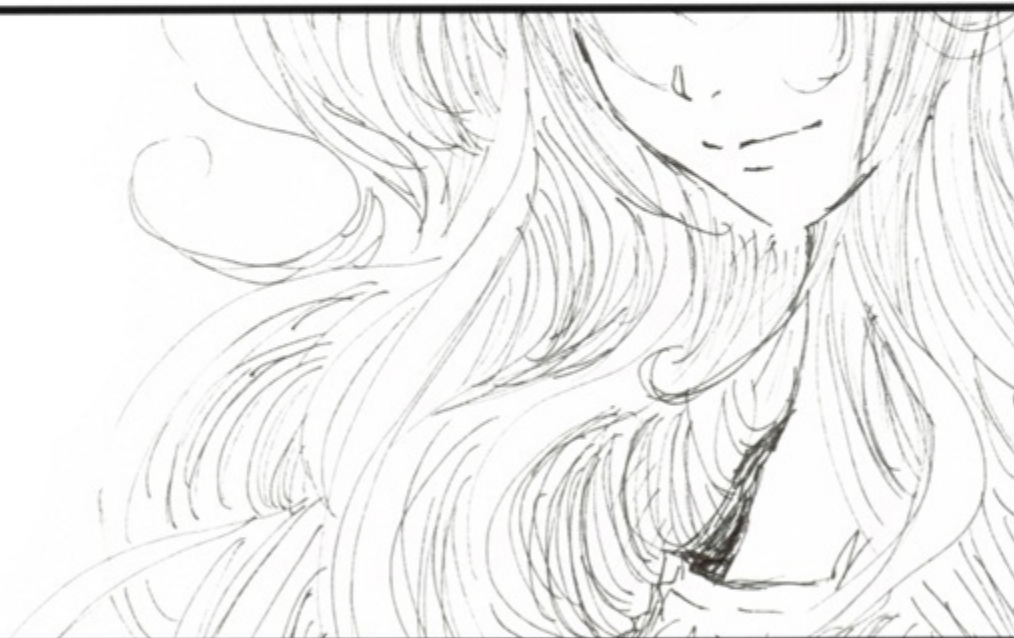
君たちは、
模造品
じゃあ、ないのにね

僕たちは、
カミサマ
でも、ないよ

じゃ
また後で



そもそもにおいて、僕らがこの家にいるということそのものが、動かすことのできない結果なのだ。僕らはヤギメやカタハネのような模造品ではない。カミサマの造化ではない。同居人である彼らに言わせれば、僕らはカミサマとして産まれたということになるだろう。それにもかかわらず僕らがここにいるのは、僕らが変化したからだ。変化が皮膚の内側であつたうちは僕らはこの家の外で暮らすことができたけれど、変化が外面に出た途端、僕らはそれまでから拒まれ、抛られ、隠された。そうして辿り着いた揺り籠がこの家だ。壁の向こうから追われた僕らにとって、たとえここが檻であつたとしても、ここに流れついたのは僥倖なのだ。



ともに変化したから、
君も僕もここにいる。

だからこそ、
僕は信じている。
愚かしく、縋りつく。
変化とは、結果であると。

あとがき



どっちが僕でどっちが君かとかはご想像におまかせします。

2015/11/26 南風野さきは



アドラーレ 03

著(描)：南風野さきは

発行：片足靴屋/Sheagh sidhe

URL：<http://id12.fm-p.jp/20/LIR/>

Twitter：@SAKIHA_HAENO

※著作権は著者に帰属いたします。

※この物語はフィクションであり、実在の人物・団体・事件等には
一切関係ありません。

アドラーレ 03

<http://p.booklog.jp/book/102926>

著者：片足靴屋/Sheagh sidhe

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/leithbhrogan/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/102926>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/102926>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ